

# BPMSと業務プロセスとの連動

－ iGrafxとBPMSとの連携による業務改善 －

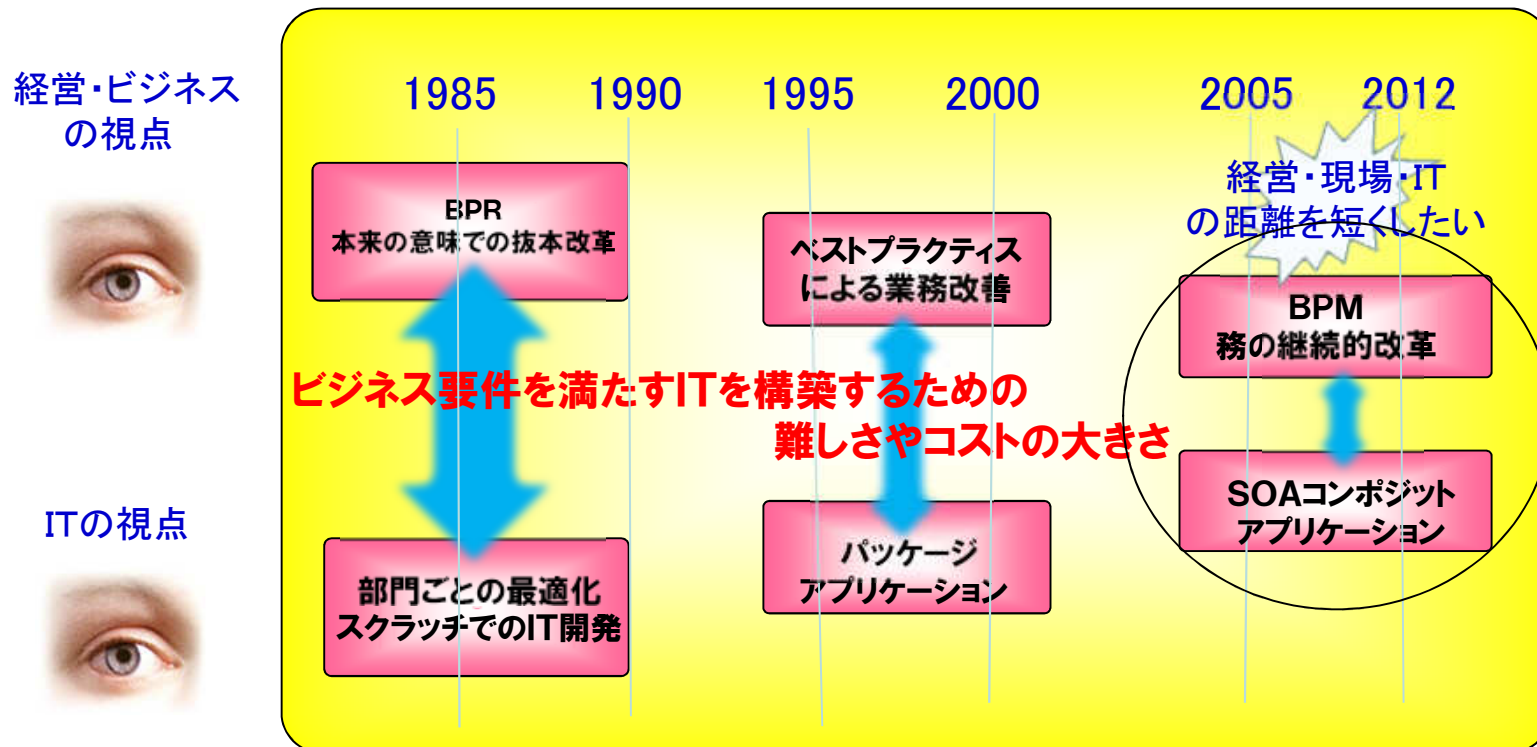
株式会社アイグラフィックス

## (1) 業務とITとの「連動」で企業が目指すもの

- 業務改善基盤の構築と整備
- 業務とITとの壁を取り除く
- 業務プロセス起点とした最適なITシステムの構築
- 業務とITでBPMサイクルを回す
- 企業利益の向上と業務品質向上

## (2) 業務とITの歴史

- 業務とITの隔たり



### (3) 昨今の要求

- 「見える化」への要求
  - コンプライアンスのため、業務を標準化しプロセスを明確にする
  - 業務プロセスを見える化し属人的な作業を排除する
  - 業務の改善をプロセスの視点から行う
  - 現場の意図(業務プロセス)に即したIT化を実現する
- 加速を続ける今日のビジネス
  - より速く、きめ細かいサービスの提供
  - 多様化を増すビジネス構造への対応
  - 他社に先駆ける商品やサービスが生き残りの鍵
- 課題
  - いかに速く「業務プロセス」を改善し、競争力を付けるか？
  - 業務改善に合ったITの構築を、いかに低コストに短期間に行うか？

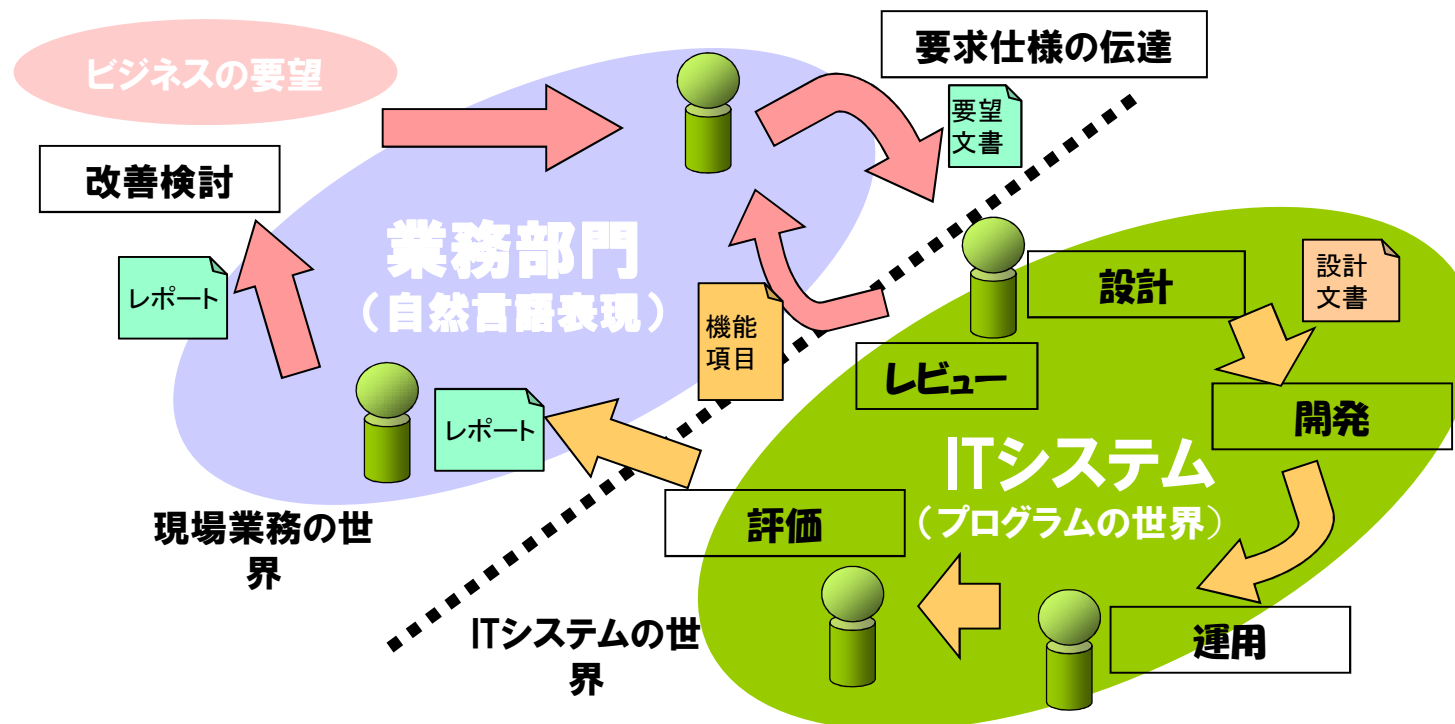


BPM・SOAが求められてきた背景

## (4) 分離されている業務とIT

### ● 業務の要望がITに正しく伝わらない

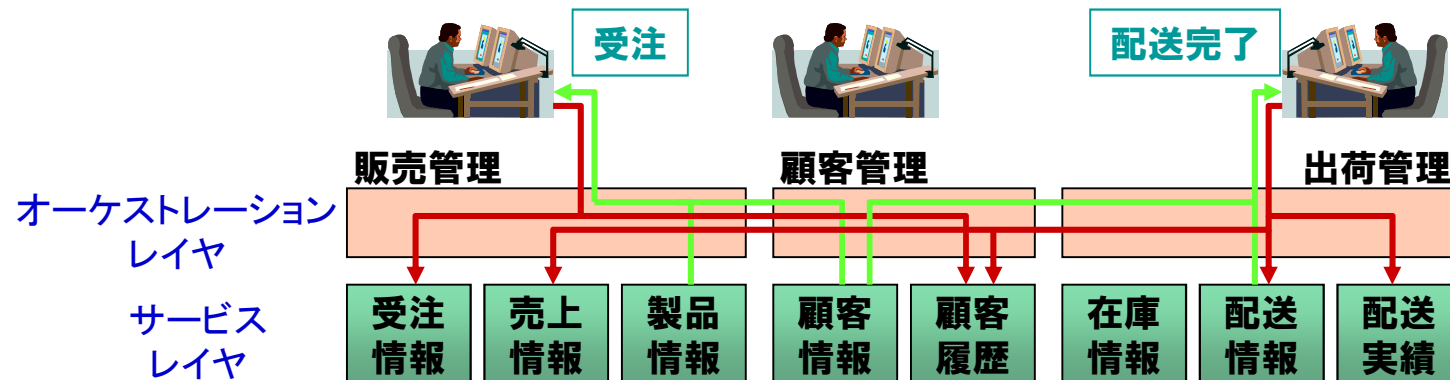
- 異なる文書、異なる表現、用語(お互い日本語を話していても相手に通じきっていない)
- ITの評価までには多段の行程があり、元々の意図はシステム的な設計に落とし込まれている。



## (5) BPM・SOAの役割と効果

### ● SOAとは？

- 機能を部分提供し、他所からの利用を可能にする。
- プロセス定義に従ってそのサービスを組み合わせることで業務を遂行することが可能になる。



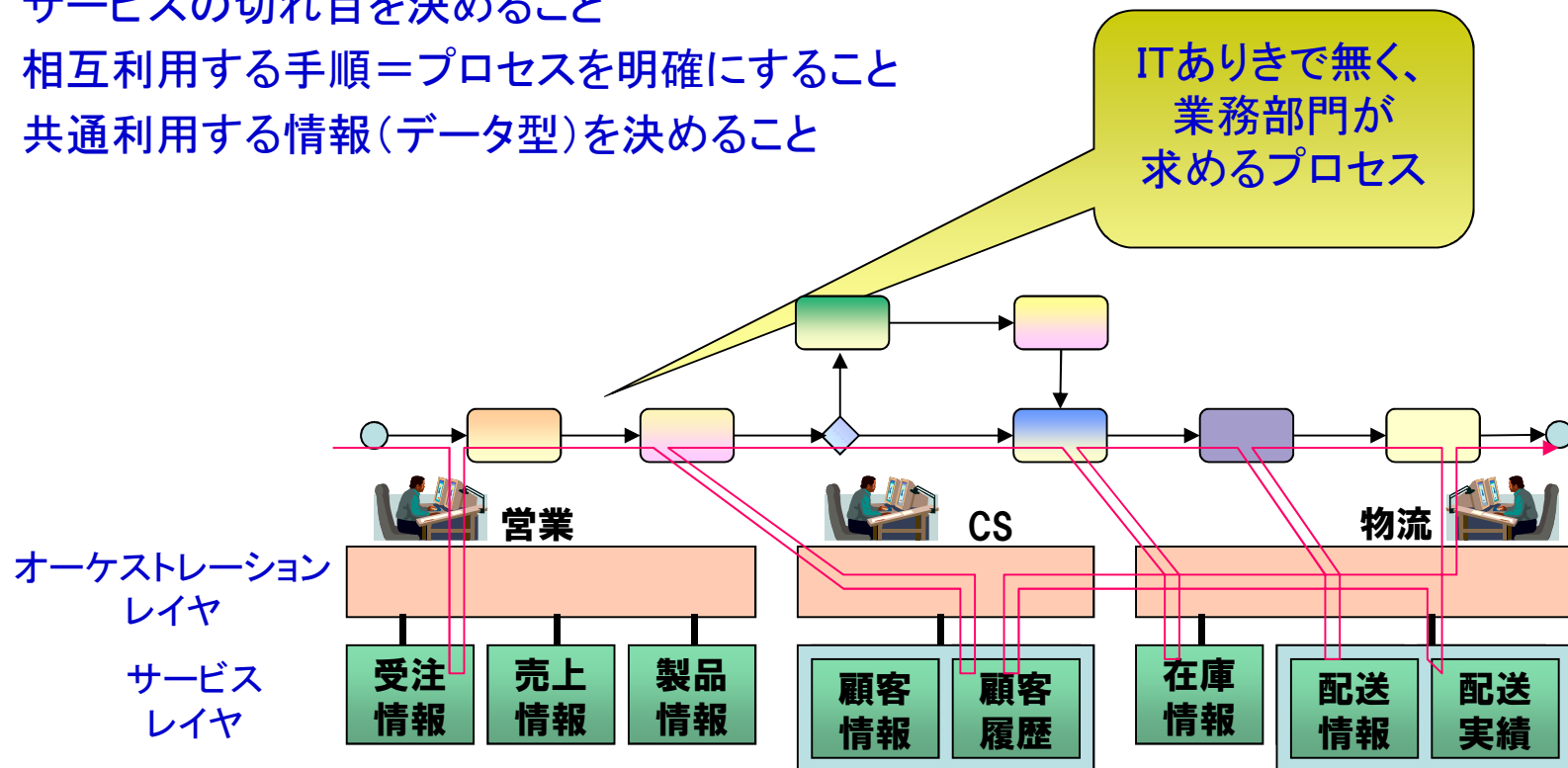
機能の独立性が無ければ、  
他所から、好きなときに利用できない



その意をこめて  
「サービス」と呼ぶ

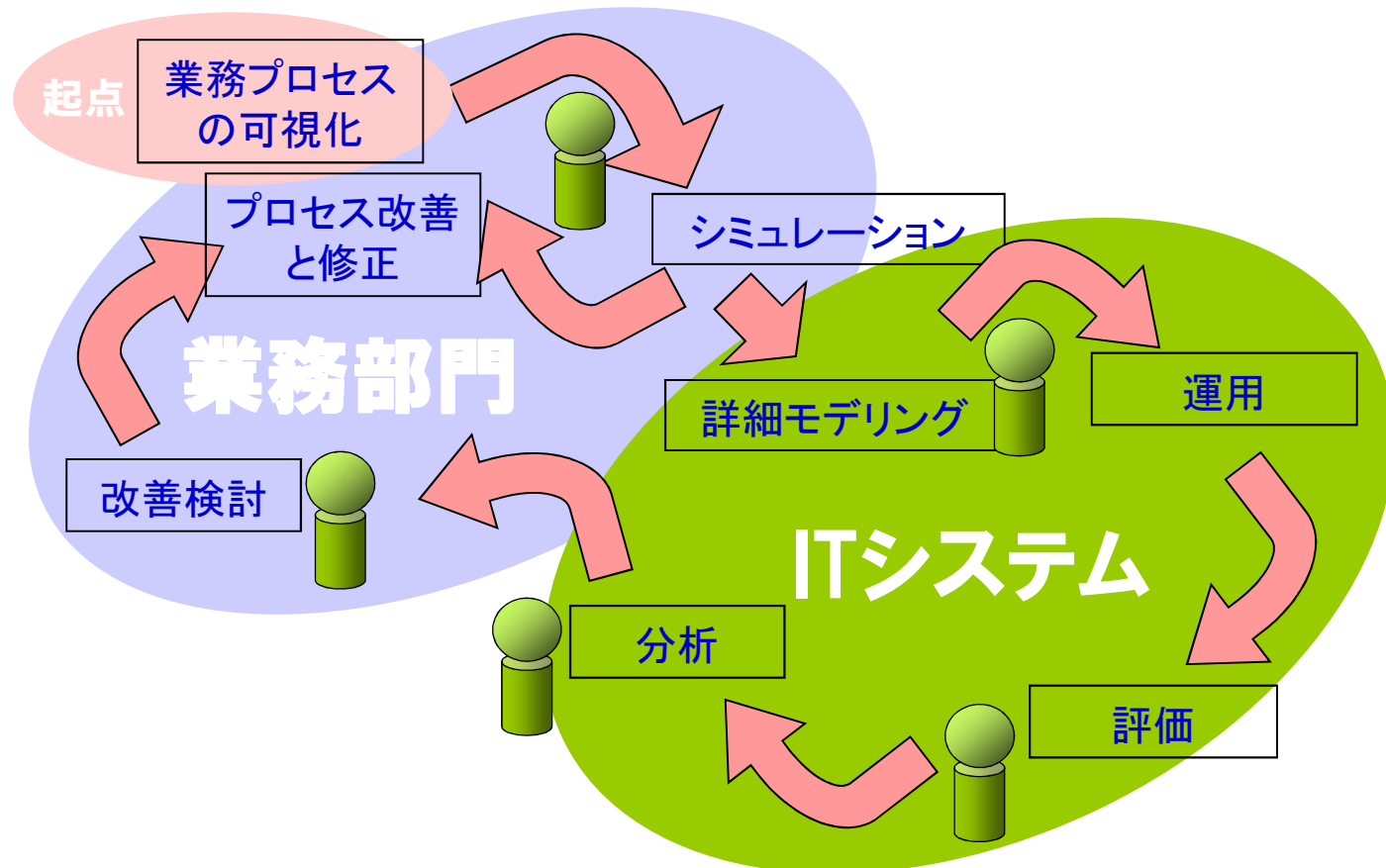
## (6) BPM・SOAと業務プロセスの関係

- BPM・SOAで重要なポイント
  - サービスの切れ目を決めること
  - 相互利用する手順＝プロセスを明確にすること
  - 共通利用する情報(データ型)を決めること



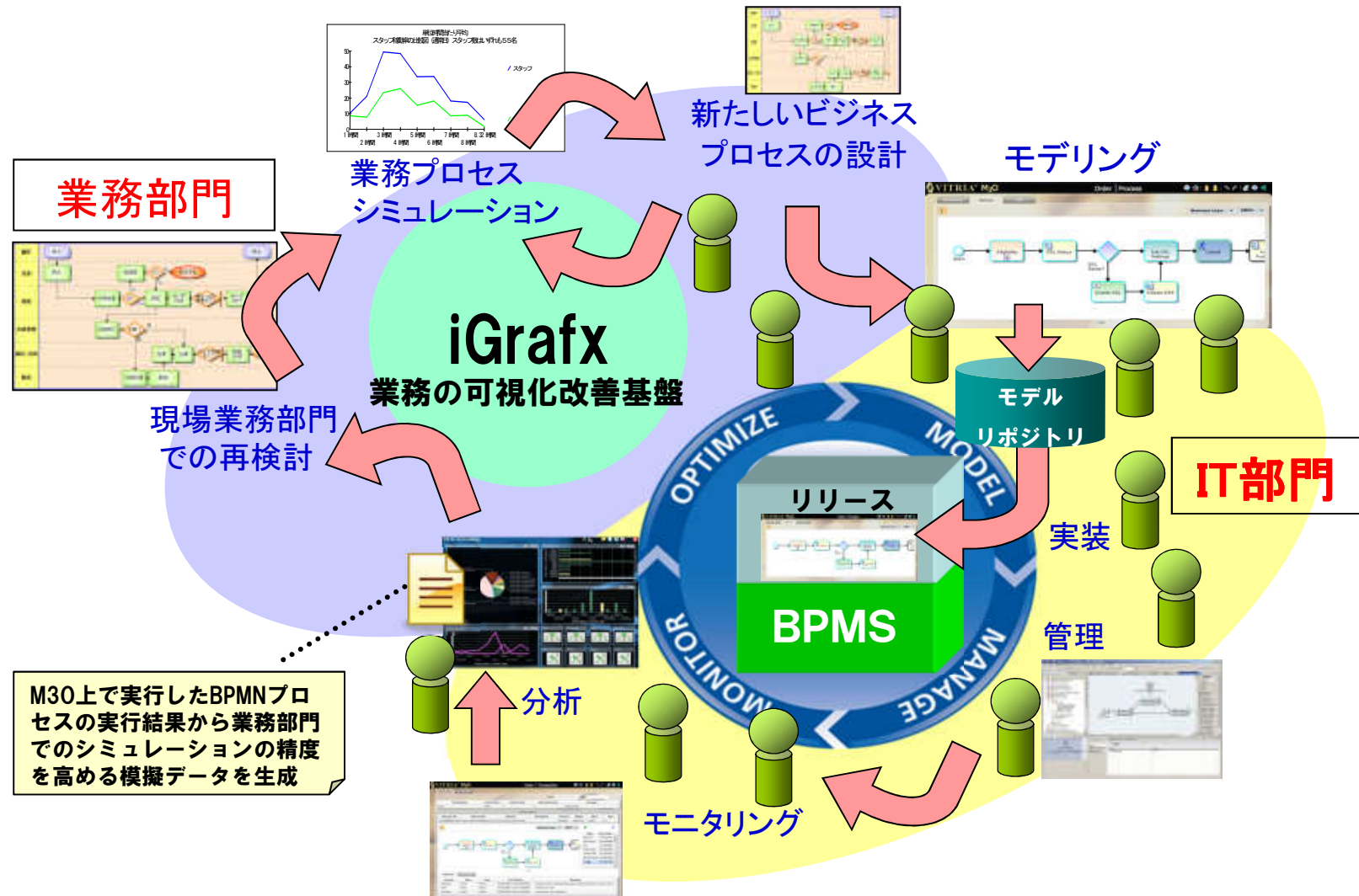
## (7) BPMで業務とITを繋ぐ

- 業務プロセスの可視化から始まる改善サイクル



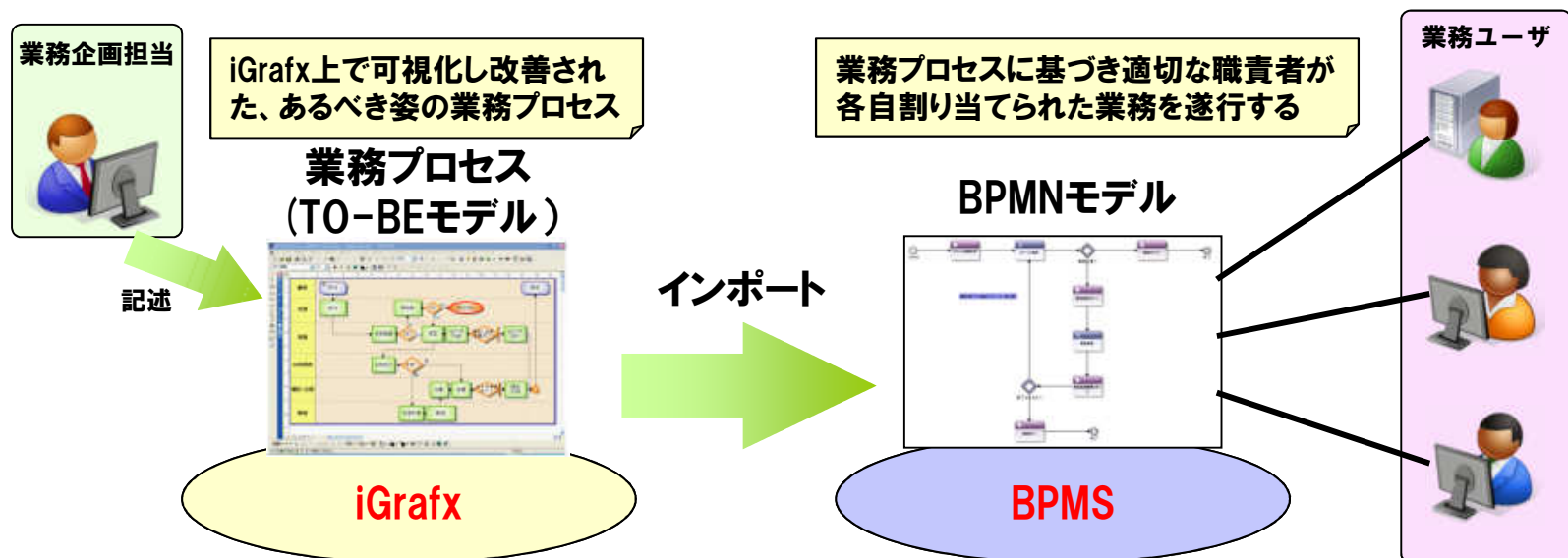


## (8) BPMサイクルにフォーカスしたソリューションの構築



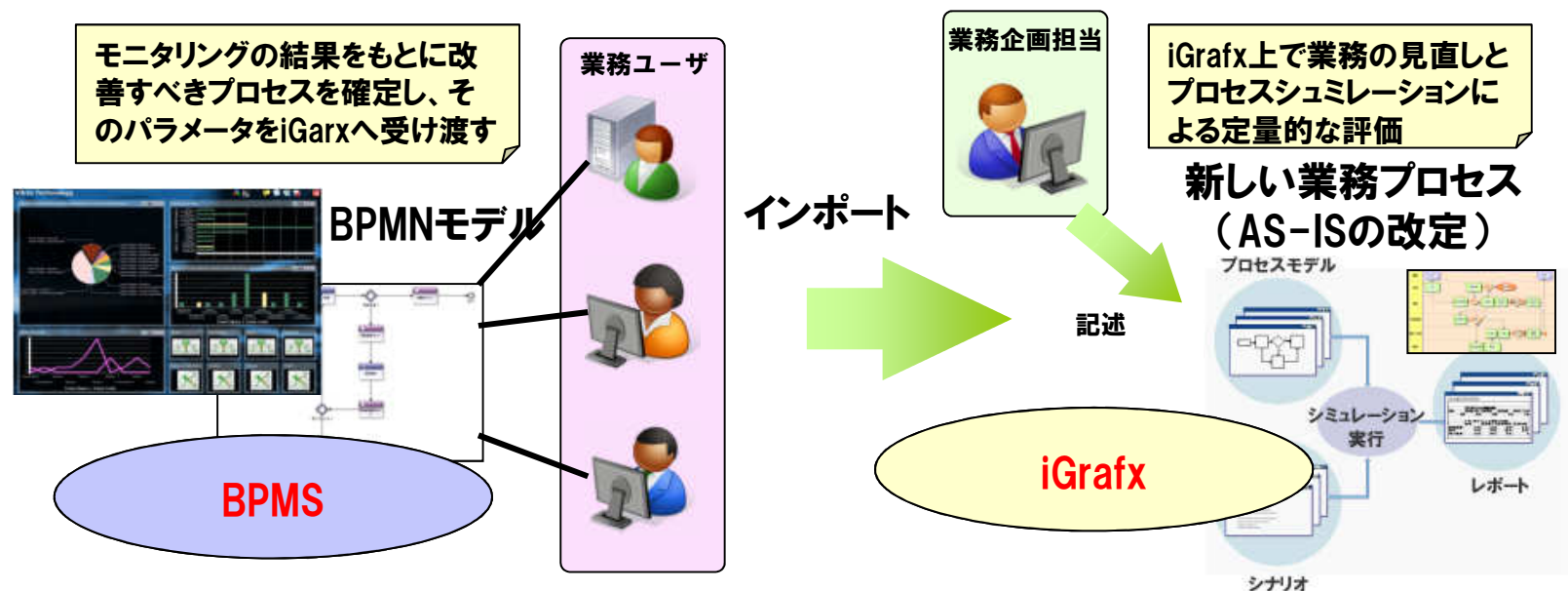
## (9) iGrafxの役割-1 (iGrafx to BPMS)

- ・ 可視化され改善された業務プロセスがそのままITで動作する
  - 内部統制などでの為記述された業務プロセスをBPMSへ受け渡す
  - コンプライアンスに沿った業務プロセスを設計
  - 業務改善されたあるべき姿の業務プロセスをITで実現
  - 現場の意図をITへ受け渡す
  - 業務の可視化・改善基盤を構築



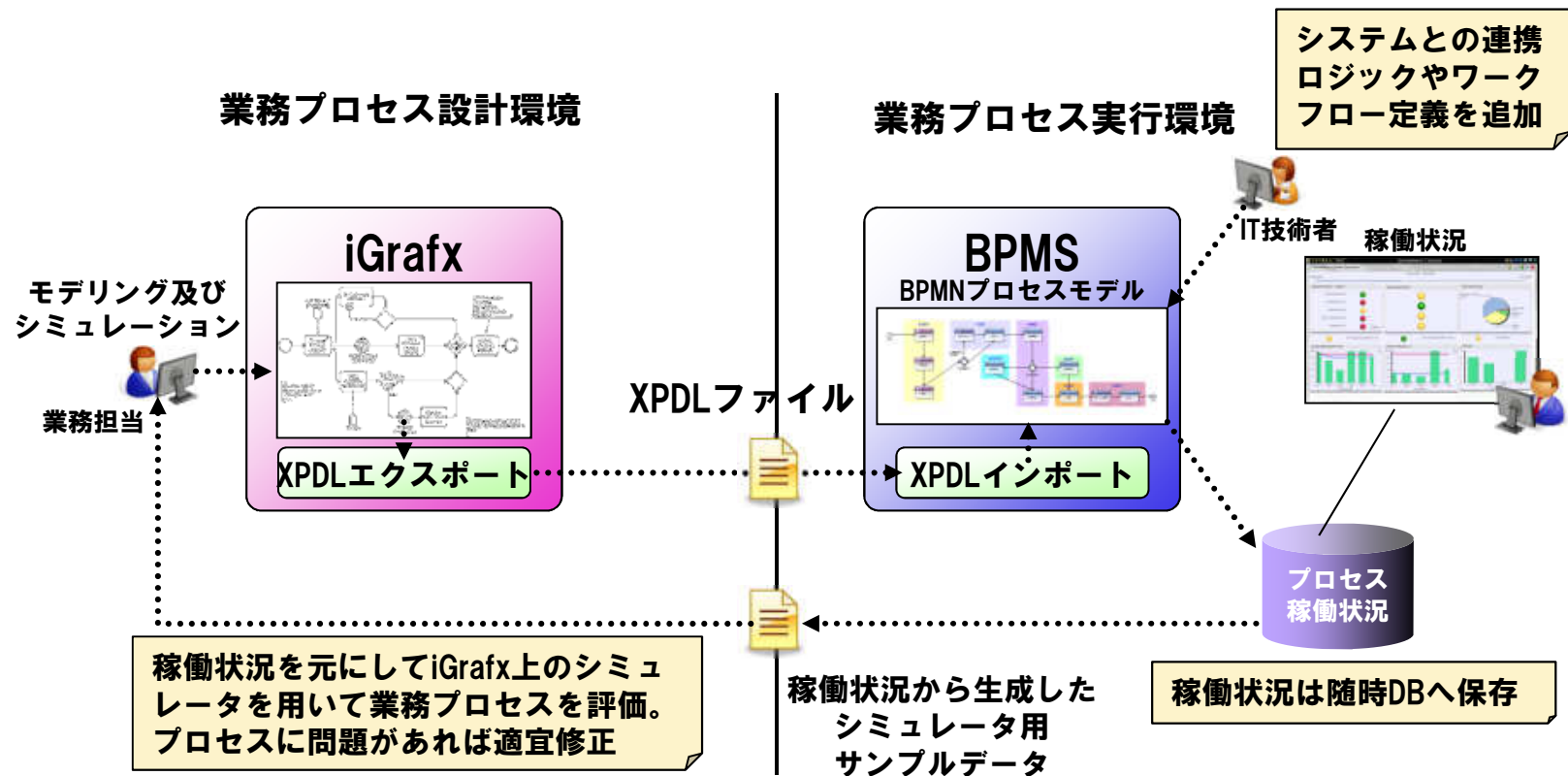
## (10) iGrafxの役割-2 (BPMS to iGrafx)

- ・ **モニタリングした結果データを業務プロセスへ受け渡し、TO-BEモデルを設計**
  - **BPMS**のモニタリング結果をiGrafxへ
  - **iGrafx**のプロセスシミュレーション機能を利用し業務を定量的に評価
  - 業務改善されたあるべき姿の業務プロセスを**BPMS**へ
  - 現場の意図と効果が反映された業務プロセスをITへ受け渡す(**iGrafx**の役割-1へ)



## (11) iGrafxとBPMSの連携方法

- **iGrafx**からXPDL形式で出力し、**BPMS**にインポートすることでBPMNモデルを構築する

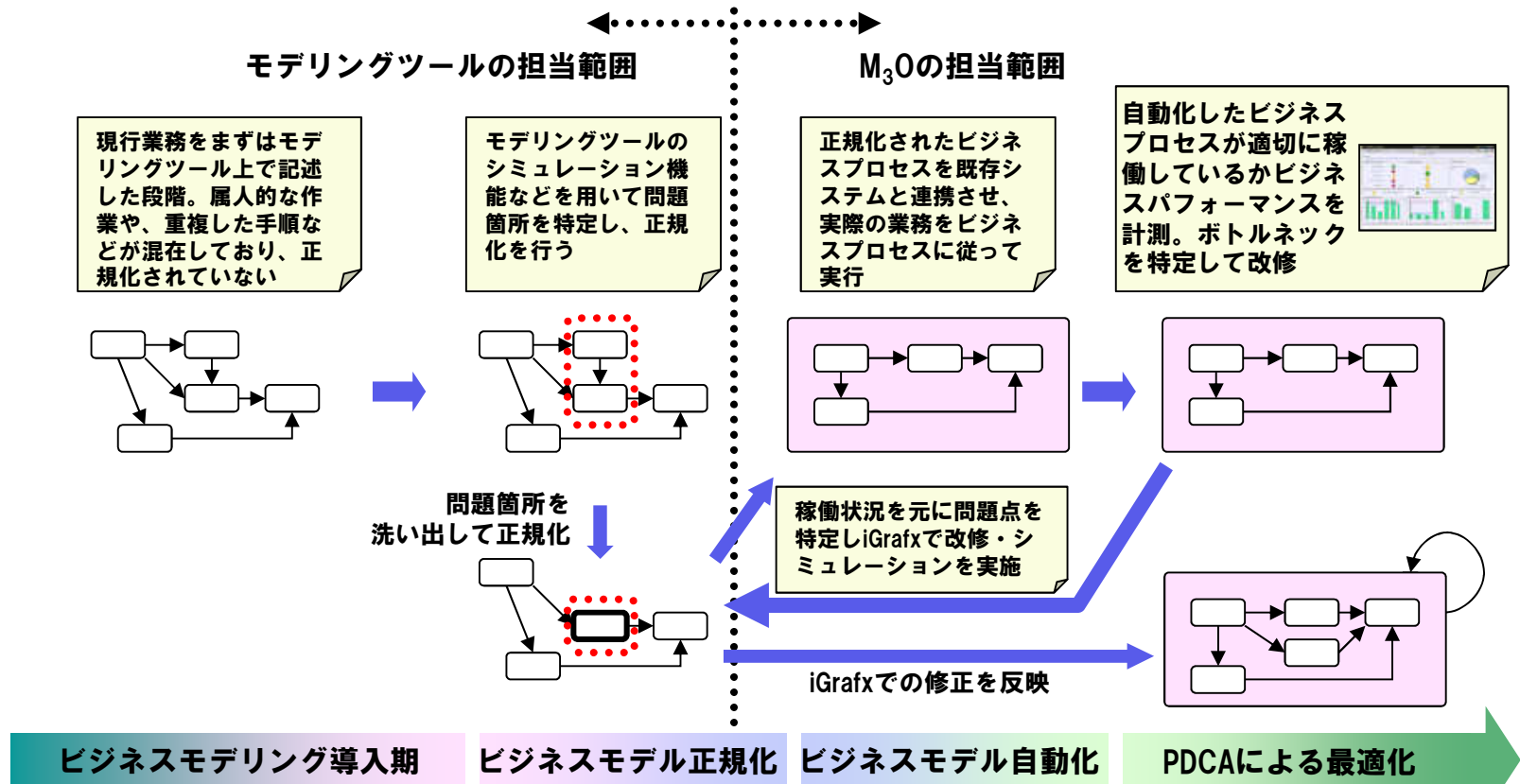


## (12) iGrafx→BPMS連携の流れ

1. iGrafx上で既存の業務または新規業務のプロセスを記述
2. シミュレーションを行い、妥当かどうかを評価し、必要に応じて修正
3. 作成されたBPMNモデルをXPDL形式で保存する
4. XPDLファイルをBPMSに取り込み、プロセスモデルとして保存
5. ワークフローのための画面や担当者の設定、関連するサービスの呼び出し、ロジックなどをプロセスモデルに追加
6. BPMS上でプロセスモデルを実行し、モニタリングで稼働状況を確認
7. 必要に応じて新しいKPIを元にしたビューを追加し、プロセスモデルの稼働状況を更に分析
8. 得られた稼働情報からBPMNモデルに適宜修正を加えたり、シミュレーションの精度を上げるため、モニタリングによって得られた情報からシミュレーション用データを生成
9. iGrafx上で実行環境の稼働状況を元に生成されたシミュレーションデータを用いてシミュレーションし、必要に応じてBPMNモデルを修正

## (13) iGrafxとBPMSがカバーする範囲

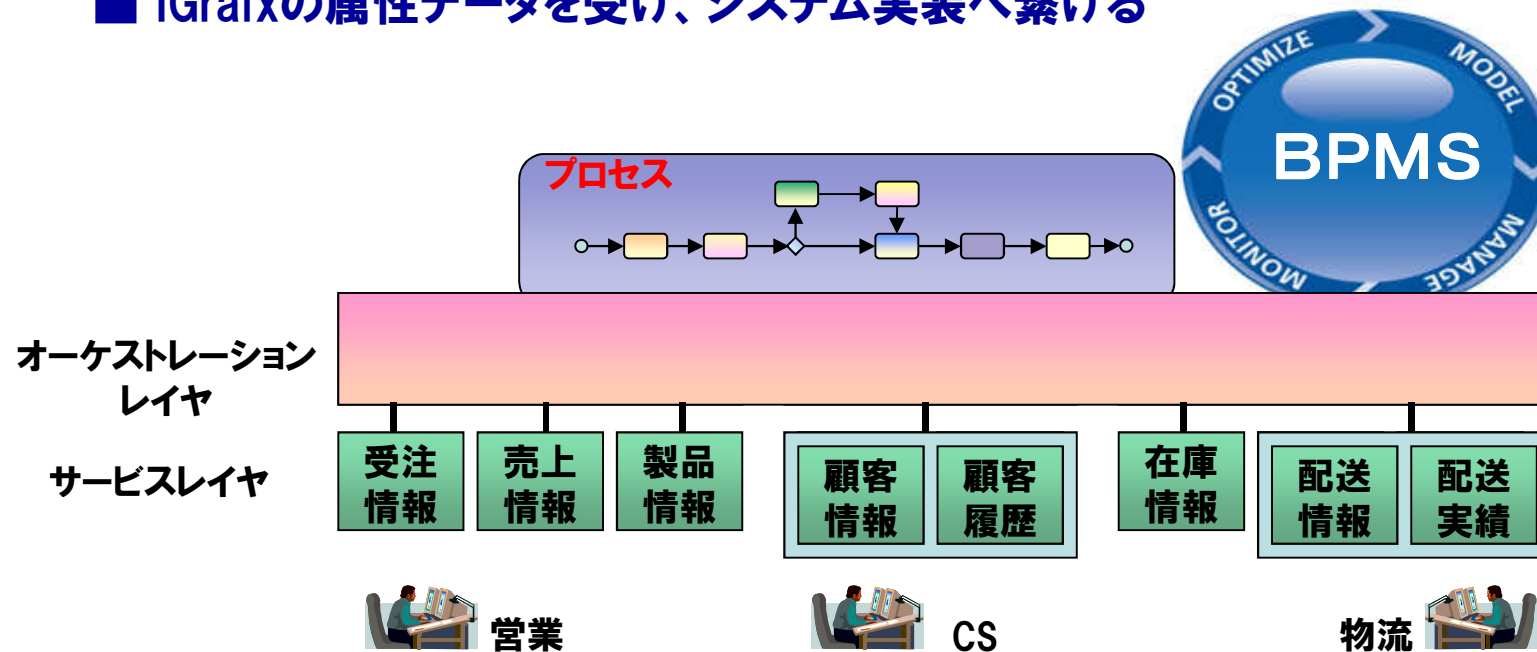
- **ビジネスモデリングから実際のシステムへの反映のうち、BPMSはある程度固まったビジネスモデルを実際にシステムと連動させて自動化を実現する部分で効果を発揮する**



## (14) BPMSの役割

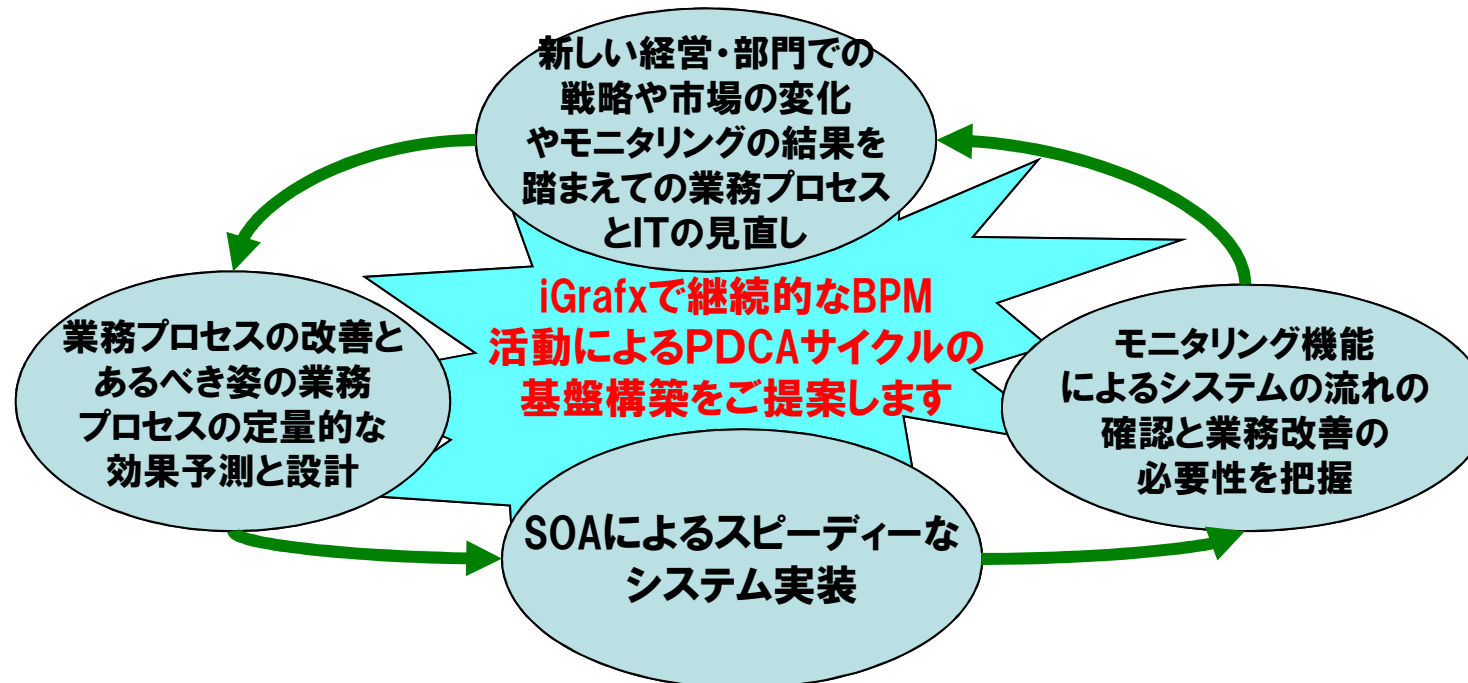
### ● BPMSの役割

- サービスをコントロールする(オーケストレーション)
- **プロセス**を設計し、実行・管理・改善に繋げる
- モニタリングの結果データを業務側のiGrafXへ受け渡す
- iGrafXの属性データを受け、システム実装へ繋げる



## (15) まとめ

- 従来、標準としてきた業務プロセスも環境の変化、市場の変化で陳腐化が加速します。その結果として、新しい商品の戦略や最適なリソース配置などを考慮したビジネスモデルの再構築と、戦略的なITシステムの導入が必要となります。このように企業戦略や業務の流れにマッチした情報システムの構築を進めるに当たり、業務プロセスに主眼を置いた継続的なBPM活動が必要となります。





詳しい説明をご希望される場合は表紙右上に記載してあります  
「資料番号」を添えて下記までご連絡ください。

お問い合わせ先:

〒160-0022

東京都新宿区新宿 4-3-17 ダヴィンチ新宿ビル 6F

株式会社アイグラフィックス 担当: 若松

電話: 03-6880-1232

Email: [igrafxjapan@igrafx.com](mailto:igrafxjapan@igrafx.com)